

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校

学校番号 52

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>知・情・意の調和のとれた、人間性豊かな、たくましい生徒を育成する。</p> <p>(1) 創造力と協働力を身に付け、敬愛心をもって、将来グローバルに活躍できる生徒</p> <p>(2) 自己を理解する力を身に付け、自らすべきことを考え決断し、自分を律しながら行動できる生徒</p> <p>(3) 幅広く質の高い教養を身に付け、ものごとを深く探究し、自分の考えを発信できる生徒</p>		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造力と協働力を身に付け、敬愛心をもって将来グローバルに活躍できる生徒 ・自己を理解する力を身に付け、自らすべきことを考え決断し、自分を律しながら行動できる生徒 ・幅広く質の高い教養を身に付け、ものごとを深く探究し、自分の考えを発信できる生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、論理的に自分の考えを発信できるよう、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業の推進 ・一人ひとりの学びを深め、自己実現につながるためのカリキュラム編成と、個に応じたキャリア支援の実施 ・地域や世界の抱える課題を考察・解決し、仲間と協力して新たなものを創造する力を育成する探究的な学びの推進 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い好奇心をもち、自分の考えを発信したり他者の意見に耳を傾けたりしながら、多様な学びに対し前向きに取り組もうとする生徒 ・自らの可能性を信じ、主体的に自分の進むべき道を見つけ、それに向かって継続的に努力しようとする生徒 ・地域活動やボランティア活動、学校行事、部活動に意欲的に参加し、他者と協働して物事を成し遂げようとする生徒

3 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導・広報
4 現状の分析	<p>○授業評価アンケートの結果から、「この授業に意欲的に取り組んでいる」はすべての教科・クラスにおいて3分の2以上の生徒が「当てはまる」と回答し、授業を積極的に受けられている生徒が多い。</p> <p>○学習実態調査とスタディーサポートの結果から、家庭学習時間はおおよそ例年並みである。しかし、平日は長時間学習する層が増え、休日は学習時間の少ない層が減少しているため、今年度から実施している単元テストの成果が見られる。</p> <p>▲学校評価アンケート結果から、本校の教育活動の方針について「わからない」と答える割合が増加したことから、中間考査廃止による影響が出ていると考えられる。よって生徒・保護者ともに説明と成果を継続して広報していく必要がある。</p>
5 学校の抱える課題	<p>◇地区の中学生の人数が減っている中、5年連続で入学定員を割っている。</p> <p>◇幅広い成績の生徒が入学し、ほとんどの生徒の学習は量、質ともに未成熟である。</p>
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習習慣を身に付けるために、単元テストの取組みと、生徒の学習に関する教員の働きかけの推進を図る。 ・1、2年生で実施されている新カリキュラムによる観点別学習状況評価（以下、観点別評価と記す。）を的確に運用する。 ・保護者、中学生への広報活動を積極的に行う。

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 単元テストを多くすることで、スモールステップで基礎基本を身に付けて学力の定着を図る。単元テストごとに振り返りを実施して、必要に応じて学習相談を実施する。</p> <p>(2) 課題とレポートの区別を付けて、レポートによる観点別評価を実施する。テストによる評価に偏らないよう注意する。</p> <p>(3) 中津高校ホームページを頻繁に更新する。中津高だよりを積極的に発行する。また、夏の中学生体験入学や秋のオープンスクールの内容を充実させて中津高校の魅力を中学生に伝えていく。</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 模擬試験の結果・学習実態調査・授業評価アンケート・スタディサポートの結果</p> <p>(2) 前期・学年末の観点別評価の結果と10段階評価の結果を検証する。</p> <p>(3) 学校評価アンケートの結果、体験入学・オープンスクールのアンケート結果によって評価する。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストのスパンを短くして基礎基本に絞ることで学習に対する自信と、学習に向かう姿勢を育成した。学習相談を実施して生徒の学習をサポートすることで自信の喪失を未然に防ぐよう努めた。 ・課題とレポートの区別をはっきりさせ、課題の提出を求めないことで生徒の負担を減じた。一方でレポートは提出を求めて観点別評価を実施した。生徒自身に自分の学びを選択させて主体性を育成することができた。 ・中津高だよりの内容や写真を充実させ、多くの行事や取り組みを紹介した。また、中学生保護者向けの学校紹介や、中学校への出前授業に積極的に参加して生徒による学校紹介や日々の取組みを発表するなど中津高校の魅力を発信した。 	<p>10 評価視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験の結果、学習実態調査、スタディーサポート ・各教科の評価 ・学校評価アンケート、事後アンケート 	<p>11 評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○ 学力の定着について、一定の成果が出ている（1年生模擬試験結果）。</p> <p>○ 各教科がレポートを主体とした観点別評価の研究を行い評価基準を完成した。</p> <p>○ 中学生保護者向けの学校紹介や、中学校への出前授業に積極的に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座では生徒による学校紹介や日々の取組みを発表するなど中津高校の魅力を発信した。 ● 単元テストの実施時期が重なり生徒の負担が増えた。 ● 地区の中学生の人数が減っている中、5年連続で入学定員を割っている。 	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>① 今年度年2回の中間考査を廃止したが、来年度より定期考査を廃止する。これにより生徒の負担が増えないように年間の単元テスト計画を作成・配付して、主体的な学習習慣がより一層生徒に身に付くよう実践していく。</p> <p>② 学習指導委員会を中心に各教科における課題の精選（必要の無い課題は出さない）等を検討して生徒の主体性を伸ばす取組みをする。</p> <p>③ ホームページをさらに充実させ、出前講座などたくさんの中学校へ出向いて広報に力を入れることで中津高校の魅力を伝えていく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学でもテストや課題が重なり学生が負担に感じることはある。生徒会役員立候補者が負担軽減を公約に掲げるということは、学校との信頼関係がありよい。 ・定期考査の際はその期間だけ勉強をしていたが、評価テストに変わり常に勉強をしているので、評価テストの方がよい。 ・生徒や教職員の負担軽減をしながら評価テストを更に改善してほしい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校

学校番号 52

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇生徒支援(教育相談・特別活動)	
4 現状の分析	<p>○学校祭や生徒によるLHRなど生徒が主体的に活動できる場面では積極的に活動できる生徒が多く見られる。</p> <p>▲生徒のアンケートでは「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている」の結果で、「あてはまる・まああてはまる」が80%で昨年より12%下がる結果となった。生徒にはモラルやマナーの大切さが理解されてきている傾向である。また、保護者アンケートでは「学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応している」について「よくあてはまる・ややあてはまる」の合計が52%となっていて、生徒のアンケート結果の69%と比べると認識に開きが昨年同様あった。</p> <p>▲保護者に対する「授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」で67%と回答している。中津高校の「生徒一人一人の個性を生かした自己実現」という目標には課題が残る状況であり、分掌・学年会・教科で対策を講じる必要がある</p> <p>▲「学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせる指導を行っている」については、72%の保護者からは評価されて昨年より4%下がった。身だしなみや挨拶などの基本的な生活習慣について、保護者からは関心の大きい評価対象なので、今後生徒自らが自分自身を律する「自律」が徹底されるような支援をしていきたい。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇学校生活の各場面で受動的な姿勢で取り組む生徒が多く感じられることから、自ら主体的に行動できる生徒の育成が重要である。</p> <p>◇日常生活の中で自他を尊重できる姿勢や社会規範を重んじる姿勢の育成も重要である。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・部活動・学校行事・その他の特別活動にしっかり参加し、優先順位を付けて行動できるようにさせる。自主・自立を促す。 ・校内での身だしなみは落ち着いてきたので、今後もこれが継続するよう、身だしなみ指導は継続して実施する。また、校外についても気を配るよう努める。 ・地域との連携・関係を昨年度以上に築き上げていく。そのためにもCCC活動の活用や地域に広がる主体的な生徒会活動・委員会活動を展開する。また、特別支援学校との交流も検討したい。 ・本年度も生活委員会が作成した「スマホ使用マナーキャンペーン」を実施した。生活委員会・生徒会を中心に啓蒙活動を活発にさせたい。危険な歩きスマホを自重するように指導していきたい。 ・問題行動、いじめ、不審者等様々なトラブルに関する事象の未然防止に努める。 ・全職員が共通の課題を認識し(共通認識)、あらゆる場面で助け合いながら(協同体制)、指導・支援する。 ・問題を抱える生徒や保護者への初期対応を迅速に行う。早期の保護者との連携を躊躇しない。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年会や各分掌との連携の強化 (2) 全職員が共通認識し、協同体制で指導・支援できる体制強化 (3) 主体性を重んじた活動や各種委員会の活性化につながる活動支援(CCC活動は少しずつ再開し始めている) (4) 教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 諸活動参加者の感想、生徒の実態を観察 (2) 外部アンケートによる実態把握 (3) 迷惑調査など生徒へのアンケートによる実態把握 	

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、委員会における学校祭の主体的な取り組み及び部活動の活性化 MSリーダーズによる啓発活動 SCによるカウンセリングと事後指導 	<ul style="list-style-type: none"> ①参加状況、活動後の生徒の様子 ②参加状況、活動後の生徒の様子 ③アンケート結果、態度 ④未然防止、問題解決 	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会執行部が主体的に模索しながら活動できた。前期生徒会は旭陵祭の実施及び学校紹介等の動画作成や後期生徒会の次年度の学校祭の方向性の模索や校則などのアンケート、目安箱、試験的な昼食購買の実施などの活動があった。 ○コロナウィルス感染症が5類扱いとなり、CCC活動は以前のようにボランティア活動が再開されたので、多数の生徒が積極的に参加した。CCC活動は中津高校の特色であり、生徒の自己有用感や自己肯定感を育むことができるので今後も生徒に積極的に提供していきたい。 ○生徒がより主体的に委員会活動などの特別活動に関わることができるようになりつつある。具体的には、文化委員会が定期的なイベントを企画・実施した。 ○中津高校のシンボルでもある噴水の清掃を今年度も生徒会執行部が中心となり実施した。 ○コンピューター部が「あったかい言葉がけ」の東濃地区のポスター作製に協力した。 ▲身だしなみは落ち着いてきてはいるが、他者への配慮が欠ける生徒が見受けられた。 ▲人間関係のトラブルはSNSに関するものが多くあり、今後ともSNSを含めた携帯（スマホ）使用に関するマナーについては事あるごとに指導していきたい。 ▲勉強と部活動の両立は言うまでもないが、3年間のうちに何か一つ自分の視野を広げるために学校外の活動に参加するような意識づけをしているが、一部の生徒への広がりを感じるが全体への浸透は感じられない。自分の可能性を広げることは将来の可能性へとつながるので、全体へ広がる方法を模索していきたい。 	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がより積極的に様々なことを企画立案できる環境を作り、リーダーの育成という観点を重点課題として委員会活動の活発化を引き続き充実させる。 ・生徒がより積極的に様々な企画に参加し、自己有用感・自己肯定感を感じることができる特別活動を実施することを継続する。 ・SNS等携帯（スマホ）の有効な使用方法を生徒たちに考えさせる。 ・生徒が中津高校の生活に対して充実感がある生活をさせる。 ・特別支援教育と教育相談を上手に峻別し、様々な生徒に対応するための教育相談体制をより充実させるよう検討し、教員研修を実施する。 ・校則や制服について生徒にアンケートを実施し、生徒会を中心としてあり方を検討する。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】

- ・今は不審者と思われるため地域の人から生徒に挨拶をしづらい。生徒から自主的に挨拶をしてほしい。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立中津高等学校 学校番号 52

I 自己評価

3 評価する領域・分野	◇進路支援	
4 現状の分析	<p>① 生徒の評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」 高評価 82% (前年度より-1%)、分からない 13% (前年度より+1%)。 ○「本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」 高評価 82% (前年度より-1%)、分からない 12% (前年度より+1%)。 <p>…昨年度同様、概ね高い評価を得ているが「分からない」の割合が高いように感じる。適切な進路支援がおこなわれていることを実感できるような生徒一人一人に対するより具体的な指導を進めていきたい。</p> <p>② 保護者の評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」 高評価 94% (前年度より+3%)、分からない 3% (前年度より-3%)。 <p>…年7回の「保護者のための進路サポート勉強会」をオンラインで実施しており、保護者の参加数も多く、昨年度と同様高い評価を得ている。引き続き、時機を逃さずに進路情報を提供していきたい。</p> <p>▲「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしてくれる」 高評価 74% (前年度より-4%)、分からない 20% (前年度より+3%)。</p> <p>…昨年度よりも高評価が減少した分「分からない」が増加した。三者懇談をする担任に対して、進路支援部の方から支援できる体制を作り、適切な進路支援がおこなわれていることを実感できる進路支援をしたい。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇進路関連の行事が多く、教員が多忙である。</p> <p>◇生徒が自らすすんで学ぼうとする態度をいかに育成するか。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>① 個々の生徒が自己を正しく理解し、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるよう、助言や援助に努める。</p> <p>② 個々の生徒の特性等を的確に把握し、望ましい職業観を育むとともに適切な情報を提供し、計画的な進路（人生）設計の補助に努める。</p>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進路指導及びキャリア教育において進路支援部が率先して進め、次年度に引き継がれる体制作り</p> <p>(2) 進路プログラムの充実</p> <p>(3) 効果的な補習、模試の計画と実践、評価</p> <p>(4) 進学情報の分析と提供</p> <p>(5) 進路判定会議の充実</p>	<p>(1) 各種事業実施後のアンケート集約や反省の分析、活用方法</p> <p>(2) 生徒の進路結果やその満足度</p> <p>(3) 教員側からみた一人一人の生徒の進路結果の分析</p> <p>(4) 学年会や他の分掌からの意見</p> <p>(5) 進路結果と判定会議の検証・分析</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>① 1年生秋季研修、1年生合同企業説明会、弁論大会、1・2年生出前講座、各種進路講話、探究活動発表会</p> <p>② 夏期集中補習、共通テスト演習</p> <p>③ 大学判定会議、就職支援、羅針盤発行、インターンシップ、SDGs学習</p> <p>④ 保護者を対象とした進路サポート勉強会</p> <p>⑤ 外部講師（河合塾）による特別補習</p>	<p>① 教師・生徒の反省等</p> <p>② 模試成績の判定等</p> <p>③ 進路情報の活用等</p> <p>③ 保護者との連携</p> <p>④ 生徒の感想等</p> <p>⑤</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果・	総合評価	
<p>○全校で導入していたスタディサプリ（リクルート社）を今年度より希望者のみでの利用とした。利用者は少なくなった（3年生48名、2年生3名）が、各生徒の自宅学習の充実に取り組んできた。また今年度はClassi（ベネッセ社）を1・2年生で導入し、模試の事前学習から自己の学習へと発展させたい。</p>	<p>A (B) C D</p>	

課題	<p>○生徒の自己実現に向けてのサポートに全校体制で取り組んでいる。面接や小論文の個別指導などは全ての教員が協力体制にあり、推薦入試等で成果を上げることができた。年々推薦入試が拡大しており、更なる対応が必要である。</p> <p>○1・2年生の総合的な探究の時間における取り組みが充実している。 1年生の秋季研修では、事前学習で大学教授に来ていただいたり、当日実習で大学等を訪問したりするなど充実した取り組みができた。また、その学習の過程で考えたことが、後半の弁論大会のテーマへとつながっている。2年生では、出前講座や地域の方がゲストティーチャーとして参加してくださるSDGs学習で各自の進路に対する意識を高め、探究発表会へとつなげることができた。校外活動も増えており、積極的な姿勢がうかがえる。</p> <p>○将来的な地元就職につながる指導ができた。(2年生インターンシップ、1年生地元企業説明会)</p> <p>▲成果がある一方で、以下の課題があると考え。①進路行事をいかにスリム化するか ②拡大する推薦入試希望者への個別指導(教員への負担)の軽減 ③教員側がスタディサプリやClassiをいかに活用するか ④自主学习にいかに取り組ませるか</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>① 1年生秋季研修の廃止、2年生小論文学習の廃止を行うことで、一つ一つの行事をより深く充実したものにする。</p> <p>② 3年生進路探究ゼミを総合的な探究の時間に組み込むことで、教員一人一人にかかっていた負担を軽減する。</p> <p>③ 休日の進路学習室の開放、補習を極力削減する。</p> <p>④ 模試に向けた取り組みの改善を研究する。</p> <p>⑤ スタディサプリ、Classiの更なる活用を研究する。</p> <p>⑥ 総合的な探究の時間だけでなく学校活動全般で、探究活動やSDGs学習の更なる充実を図る。</p> <p>⑦ 保護者との連携を深め、生徒・教員・保護者が一体となった進路実現への支援。</p> <p>⑧ 地元地域と連携し、地元の課題を考え、将来的に地元で貢献できる人材の育成。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けての方策案「地元地域と連携し、地元の課題を考え、将来的に地元で貢献できる人材の育成」について、中津川市も取り組んでいきたい。将来中津川市で活躍できる人材を育成したいと考えている。高校でも実施していくという話を聞いてありがたい。 ・地元で貢献できる生徒が増えているということだが根拠は何か。 ・実業高校の生徒は卒業後地元で活躍、中津高校の生徒は通過地点と感じている。地域の方が考えを変えらるとともに、高校から地域に積極的に発信してほしい。 ・インターンシップ先の企業の選定はどのようにしているか。 ・インターンシップ先の広がりを持たせると生徒の視野も広がるので、一般企業も今後検討してほしい。 ・進路選択に保護者はキーパンソンであるか。 ・就職する生徒もいるか。 ・秋季研修や小論文指導の廃止は、更によくするための変更なのでよいことである。 ・ゲストティーチャーで訪問しているが、生徒には期待している。連携事業を更に実施していきたい。
